

3 労組座談会



2018 年 11・4 全国労働者総決起集会の開会に当たり、全国から集まった労組・団体ののぼり旗が演壇に勢揃い

11月労働者集会 25年 「3 労組共同アピール」に賛同を!

●関西地区生コン支部 ●港合同 ●動労千葉

1998 年 11・8 全国労働者総決起集会をもって始まった「闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう!」と訴える 11 月労働者集会（東京・日比谷野外音楽堂）は、今年で 25 年になります。2 月に「3 労組共同アピール」(P.12) を発表した呼びかけ 3 労組（関西地区生コン支部、港合同、動労千葉）の代表が、4 月に大阪・港合同の田中機械支部で座談会を行い、それぞれの思いを語り合いました。呼びかけに応え、「3 労組共同アピール」—11・6 全国労働者総決起集会／改憲阻止! 1 万人大行進に賛同をお願いします。

闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう!

11・6 全国労働者総決起集会／改憲・戦争阻止! 1 万人大行進

11 月 6 日（日）正午～ 東京・日比谷野外音楽堂

呼びかけ 全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部
全国金属機械労働組合港合同
国鉄千葉動力車労働組合

事務局 千葉市中央区要町 2-8 DC 会館

Tel.043(222)7207 Fax.043(224)7197

出席者

- ◎全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部 **武谷新吾書記次長**
- ◎全国金属機械労働組合港合同 **中村吉政委員長**
- ◎全国金属機械労働組合港合同 **木下浩平執行委員**（昌一金属支部委員長）
- ◎国鉄千葉動力車労働組合 **関 道利委員長**
- ◎国鉄千葉動力車労働組合 **田中康宏顧問**（司会）

3労組の特徴は？

田中 今年、日比谷野音で毎年欠かさずに開催してきた11月集会が25年を迎えます。それをきっかけに労働運動再生の志をもう一步前に進めたいと考え、2月には「3労組共同アピール」を発表しました。どのような思いを込めて出されたのか、それぞれの立場から話していただけたらと思います。ウクライナ戦争が勃発し、そこで訴えたことがより切迫した課題になったと感じています。

国鉄・分割民営化にストで闘う

関 動労千葉の委員長をしています。動労千葉は、1979年に動労の変質に抗して、千葉地方本部が分離・独立して結成された組合です。国鉄の運転士、車両検査係を組織していました。戦後最大の労働運動解体攻撃として仕掛けられた国鉄分割・民営化攻撃（87年）に対し2波のストライキを構えて闘い、団結を守りぬいたのが動労千葉の原点です。今も民営化で解雇された仲間たちの解雇撤回闘争を継続しています。この春にもJRが進める労組根

絶攻撃に対してストライキに立ち上がりました。

争議に次ぐ争議で鍛えられた

中村 港合同の委員長をやっております。古くは総評の全国金属労組大阪地本の傘下でしたが、99年に旧同盟ゼンキンと旧総評全金がJAMとして統合する際、「闘争至上主義だ」といわれて排除され、今は上部団体を持たない地域の合同労組という形になっています。当初は鉄工所の労働者が大半でしたが、今は医療、理美容、運転手などの労働者が集まっています。ほとんどの役員・組合員が倒産争議を経験しています。争議に次ぐ争議の連続で鍛えられてきた、労働者の権利を守る普通の当たり前の労働組合です。

木下 港合同で執行委員、昌一金属支部で委員長をしています。港合同は、10年に及ぶ倒産争議に勝利して田中機械を労働者事業として確保し、地域のよりどころとなる拠点として持っています。「拠点主義」と言っていますが、地域のどんな小さ

新自由主義に抗して強力な団結を形成

なところでも面倒を見たり、官民連帯の運動をつくったり、地域全体に責任をとる運動をやっています。

産業別労働運動への弾圧と闘う

武谷 関西地区生コン支部で書記次長をしています。関生支部の特徴は、セメント・生コン産業で働くすべての労働者の利益を代表する産業別労働運動を進めていることです。大手セメントメーカーやゼネコンの狭間で収奪されている中小生コン業者を束ね、対等な交渉ができるように協同組合に組織し、「一面共闘・二面闘争」の闘いをしています。1982年には、集団交渉で締結した協定を産業全体に適用させたのですが、さっそく弾圧がありました。以降、第二次弾圧、そして現在の第三次弾圧と、運動が前進すると必ず権力弾圧による分断攻撃が入ってきます。権利侵害に対しては、不当労働行為を謝罪させるまで、徹底的に行動するのも特徴です。

田中 80年代以降、新自由主義の攻撃が社会をのみ込み、労働運動がとめどなく後退していく中で、それに抗して強力な団結を形成してきたのが3労組の共通点ですね。

11月集会25年を迎えて

田中 さて、そうした三つの労働組合が「闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう」と訴えて11月日比谷集会を呼びかけ、今年25年を迎えます。

素晴らしい歴史で感慨深い

中村 ただ25年の節目だというんじゃない、あらゆる政治的課題、労働現場の闘いを毎日のようにやり、その成果をもって全国から集まったのは本当に素晴らしい歴史であり、感慨深いものがありますね。

11月集会が始まった1998年には僕は副委員長なんです、76年に矢賀製作所が倒産し、10年間争議をやって、86年から工場を移って支部



中村吉政委員長

副委員長を社長にして別会社をつくり、仕事に忙しく人手不足で納期に追われていて、11月集会には行きましたが、僕は初期にはあまり絡んでいないんです。港合同では大和田委員長、辻岡執行委員、昌一金属の浜里委員長なんかが中心にやっていて、2010年頃からいくらか関わって始めるんですね。先輩方が続けてきた3労組共闘は本当にすごいことをやってきたなと思っています。

田中 2010年に国鉄1047名解雇撤回闘争が政治決着し、それに対して国鉄闘争全国運動を立ち上げましたが、その頃からは中村さんがずっと演壇であいさつをしてくださったですね。

中村 それからです。そこまでスタートからホップ、ステップとつなげてきたのがすごいと思います。

先輩方が続けた3労組共闘を堅持する



第1回の1998年11・8全国労働者総決起集会

組合員から隔離された。首を切られなかった活動家はほとんどそうです。11月集会に中心で関わっていたのは中野委員長や田中委員長でしたが、私も3労組の春闘討論集会で田中機械支部に泊まったこともあるんですよ。

この間、中野委員長がその当時、講演したものを読んでみたんですが、25年前に今の時代を見通していたことがわかって、ちょっとブルっとしました。

関 そういう意味では、私も委員長になって2年で、98年の時点では執行部でもありません。青年部長だったんですが、民営化後、元職場にいられたのは50日足らずで、ミルクスタンドや無人駅に



関 道利委員長



武谷新吾書記次長

てもらいました。権力や資本に妥協せず、正当なことを言って闘っていくことによって成果が上がる。関生の運動と本質的には全然一緒やんという感じがですね。

比谷の舞台で話をできるというだけでもすごいことですし（笑）、3労組共闘を堅持して、その中で関生も復権したいと考えています。

味では世代を超えて守りぬいてきた運動なんですね。この運動が始まるまで、港合同と関生支部は同じ関西でもつき合いはなかったんです。それが熱海で合宿をしたり、田中機械で争議の経験交流をしたり、何とか一つのネットワークをつくらう、労働運動を甦らせようというんなことに挑戦し、25年が経ちました。

武谷 僕は執行委員になったのが1999年で、3労組共闘は亡くなつた高副委員長から引き継いだんですが、一緒に千葉や東京に寄せてもらいました。港合同の辻岡さんと動労千葉の中野さんに本当に多くのことを学びました。僕は、国鉄闘争という、みんな闘いの旗を降ろしてしまつた後も、動労千葉が解雇者を先頭にずっと闘い続けているのが、結構カルチャーショックでした。

建交労など生コン産業でうちと袂を分かつた労働組合は4年間賃上げなしです。連合と変わらへん。そういうところを突破していかなあかんという思いがありますので、11月集会にかける思いは強いものがあります。これだけ厳しい時代の中で25年間しつかり共闘してきて、憧れの日

田中 この運動を始めたころは、全労連や全労協、労働情報系など、様々な運動体が労働運動の再生をめざす運動をしていた。でも今、それを正面から掲げて運動を維持しているのは僕らしかない。それがこの25年の間に起きた偽らざる現実です。逆に大変な状況のなかでこの運動を維持してきたことがどれほど大

国鉄闘争5・28判決に危機感

きな意味を持っているのかと感じています。11月集会が始まった直接のきっかけは、国鉄分割・民営化攻撃の渦中で起きた採用差別事件でした。民営化の際に多くの国労や動労千葉、全動労の組合員がJRへの採用を拒否されるといふ事件が起きた。その争いは各地の労働委員会で全部勝利します。ところが行政訴訟では「JRには解雇の法的責任は及ばない」という判決が出される。98年5月28日、東京地裁です。この事態への危機感が3労組を結びつけたのが始まりです。

港合同は、田中機械の闘いや矢賀闘争など、現場であきらめずにしつかり闘って勝利し、組合が現場を管理して運営し、組合員の生活を守り、地域にも貢献している。大和田さんの本には本当に多くのことを学ばせ



木下浩平執行委員

労働委員会制度の形骸化を許さない

運動を維持していきな。でも今、それを正面から掲げて運動を維持しているのは僕らしかない。それがこの25年の間に起きた偽らざる現実です。逆に大変な状況のなかでこの運動を維持してきたことがどれほど大



田中康宏顧問

資本・権力が嫌がる産別運動の前進へ

木下 港合同にとって労働委員会命令はものすごい闘いの武器やったんです。東京地裁判決は、それを全部ひっくり返して労働委員会を骨抜きにした。すごい衝撃でした。しかも労働組合がこの現実と闘おうとしない。そうしたことが11月集会につながったのだと思います。それと、国鉄闘争と結びつくことで、港合同の闘いを全国に発信していきたいという思いもありました。

中村 国鉄臨職の解雇事件の支援をずっとやっていたんです。それが国鉄闘争との関わりが始まりだったんですが、総評が解散し、民間組合も運動がドーンと沈んでいく時代に入っていた。そんな危機感があったんですね。

木下 その頃、南労会という医療法人との争議が続いていたんですが、経営側が東京地裁判決をみて「労働委員会でなんぼ負けてもいいんや」と俄然^{がぜん}元気になる。

関 国労本部はそれで骨が折れたようになっちゃった。

武谷 うちでも使用者側の弁護士は「罰則がないんだから守らんでええ」みたいな指導をしています。労働委員会の形骸化という権力の狙い通りのことが続いていますね。

港合同は、70年代に、大阪府や大

関生弾圧、労組つぶしに反撃

田中 3労組共同アピールでは四つのことを訴えました。

第一に、すべての労働者の権利、労働運動の未来をかけて、関生支部への大弾圧、政府・JR資本による「労組なき社会化」攻撃を打ち破ろう、第二に、非正規職撤廃、労働運動を刷新し、労働者の団結した力で新自由主義を終わらせよう、第三に、

阪市に対し、「不当労働行為企業は公共工事に参入させない」という文書をかちとってますね。官と民が連携して、労働委員会命令を有効化させたと聞いています。今大阪は維新に支配されていて、こうしたところが弱まっている。大きな労働組合がどんどん力を失っているから、それが小さな民間の労働組合に反映して悔しい思いをしています。

が一番嫌がるものです。穏健主義の運動ではない。かつて大槻文平（日経連会長）が、「関生の運動は資本主義の根幹に触れるものだ」と言ったことがあります。だから権力がたきに来よるということです。でもそういう闘いをしなかったら、労働者の権利は守られない。結局、資本主義が崩壊しそうになったら、戦争しかないんだみたいなところにもついていける。現場で、原理原則で闘うことによって弾圧を粉碎し、産別運動の前進をかちとっていかないと考えています。

労働者の最も重要な任務として、改憲と戦争を止めるために力を合わせて立ち上がる、そして第四に、労働運動の不可欠の課題として、労働者の国際連帯闘争を発展させよう、という四点です。この下に多くの仲間たちが結集してほしい、共に討議し、行動を組織し、変革に向けた計画をつくりあげようと訴えました。

第一に関生弾圧や労組なき社会化のことを訴えたのはなぜですか？
武谷 産別労働運動は資本や権力質です。

関 当たり前の労働組合活動が犯罪に仕立てられ、89名もの組合員が逮捕・投獄される事態を見て、「いったい何が起きているのか」と、時代への危機感がすごく広範な人々に広がってきた。それをもっと広げ大きな力にしなければいけないと思っています。これは関生支部が頑張っているから言えることですが、逆にこの弾圧を粉碎すれば本当に大きな可能性が開かれる気がするんですね。だから「関生弾圧粉碎」を本当に全労働者の課題にしたい。

田中機械支部の破産闘争に勝利

中村 70年代から、組合つぶしの攻撃がずっと続いてきた過程で、大和田委員長は、「最先端の闘いが、われわれの防波堤になっているんや、だからその防波堤を守らなアカんねん」とずっと言われてきたんですね。

当時は全国金属南大阪地協があつて、シャーリングとか鉄骨、橋梁とか、何百人規模の大手がたくさんあったんですよ。それがごとごとくつぶされていった。反撃はしたけど、なかなか持ちこたえられない。それで今度は目の上のたんこぶやということで、田中機械を破産させた。借

金もなく破産する要件はないのに裁判所と結託してつぶしにきたんです。それと10年近く闘って勝利して今に至っているわけです。

僕らもそうした体験はしてきましたが、われわれの場合は権力弾圧はさほどなかったんです。関西生コンさんの場合は弾圧が先にある。それが基本的に違うところです。でも、闘う労働者の団結を破壊しにきているのは明らかなんやから、どんなことがあってもひるむことはできないし、守らなければならない。これが



関生弾圧粉碎へ「弾圧をはねのける! 12・12 全国同時アクション」のデモ行進 (2021年12月12日 大阪)

私たちの思いです。本当にしんどいと思いますが、これを守り抜かないと、日本の労働組合の将来はないなぐらいに捉えています。

JRで軌を一にした組合つぶし

田中 今回の関生弾圧が始まったのは2018年ですが、まさにそれと軌を一にして、JRの職場では、民営化に賛成した御用組合まで全部つぶす攻撃が始まりました。

関 関生弾圧が始まったのは18年7月ですか? JR東日本でも、同年



港合同田中機械支部の破産法突破闘争勝利報告集会 (1989年9月3日 大阪)

の2月に富田という当時の社長が首相官邸に呼び出されているんですが、そこで「組合つぶし」を指示されたと言われています。18年で一緒にです。その後わずか1年ほどの間に東労組から4万人もの組合員が脱退していくという嵐みたいなことが起きました。JR東日本で一番大きな組合で、国鉄分割・民営化に賛成して首切りに協力した御用組合です。そんな組合までつぶして「労組なき社会」のモデルをつくることを意図した攻撃です。そして同じ年に関生弾圧。安倍政権ですね。労働組合をつぶして改憲に持っていくというところでしよう。「軌を一にしている」というのが本当に正しいと思います。

武谷 ほんまですね。

関 それでJR東日本では「社友会」というのがつくられる。それが社員代表となつて就業規則改悪や合理化を丸のみしていく。「疑似労組」です。労働組合に依拠しない労働者支配の方法を確立しようという「国策」としてやられています。

一番びっくりしたのは、下請けのグループ会社の労働組合が集まって組織されていた「東日本労連」が一夜にして消滅したことです。

グループ会社にも、それぞれ組合があつて、それがJR総連の下に「東日本労連」という形で組織されているんですが、「東日本労連を脱退しろ」とJRから命令されたら、全労組が一夜にして脱退し消滅した。グループ会社は7／8割が非正規職の労働者です。そういう職場で組合を消滅させる。これも総資本の意図が貫かれたものです。

木下 逆にどういう組織やったかというのが、よくわかりますね。

関 各グループ会社の単組はまだ多少残っているんです。でも上部団体がなくなってしまったから、それぞれの単組もガタガタと崩れて、たちまち過半数を割ってしまった。それで私が選挙に出て職場代表をとることになったんです。激しい組合つぶし攻撃の中からそういう新たな可能性が生まれてきたんです。

木下 ああ、なるほど。

自民党と一体化する連合

田中 関生、JRでの攻防と一体で連合のさらなる変質が進んでいま

す。企業内御用組合の座からもう落ち、自民党と一体化している。

中村 僕らが連合を見ても、芳野という会長、どっち向いているのかなと、失望するばかりです。一番あかんのはそのれに對し、単産が「おかしいやないか」という声をどれだけ上げていのか、それすら聞こえてこないことですね。ほんま連合、どないするんかなと。

武谷 街宣に立っていると、「役立たず」みたいなことを言われます。労働組合の必要性をしつかり訴えて

新自由主義を終わらせよう

田中 さて、第二のスローガン、「労働者の団結した力で新自由主義を終わらせよう」に込めた思いはどのようなものでしょうか。

関 新自由主義は、国鉄分割・民営化攻撃によつて日本に導入されました。そしてこの30年余りの間に雇用や権利、社会を破壊して暴れまわった。コロナ禍の下では医療崩壊という問題が白日の下にさらされたわけ

いかなあかんと思いますね。

田中 連合は一国のナショナルセンターです。いくらダメだと言つても巨大な権力をもつはずの組織です。それが会長のなり手も、事務局長のなり手も出てこなくなっている。もはや末期症状です。でもそれは、労働者自身の手で労働組合を再建する時が来たことを示していますね。そのためにも、まずは関生弾圧粉碎、「労組なき社会化」攻撃粉碎の闘いに勝利しなければいけないと思つています。

ですが、私たちは、保健所が半分、感染症病床が5分の1に減らされていたことに初めて気がついた。こんな現状なのに東京では今、都立病院を民営化して独立行政法人にしようとしています。

岸田首相が「新しい資本主義」と言つてますが、そんなのあるわけがない。結局、もつと搾取し、もつと社会を壊していくということになる。

新自由主義は何よりも労働者、労働組合の団結を破壊する攻撃でした。何かちよつと政策を変えればなんとかなるなんてウソですね。新自由主義を終わりにさせられるのは労働者の団結した力しかない。だから労働運動を刷新しなければならぬ。そんな思いでアピールを出し、11月集会の実行委員会も例年より4か月ぐらい早く始めました。昨年の11月集会で「来年は11月6日です」と演壇から訴えたのも、これまでの延長線ではいけない、一年がかりで組織しようという決意を込めたものでした。

武谷 その成果はもう出てますよ。去年、参加者が増えていきます。去年の総括会議でも、地域で年間を通して実行委員会を継続することを決めたと言った女性の方がいましたし、今年の第1回実行委員会も、ものすごく意気上がっていることを感じました。それは結果人数じゃなくて、すごい成果やなと感じましたね。
関 怒りの声はうず高く積み上がっています。6月4日に賛同人・賛同団体会議を予定していますが、そこまでに新たな土台をつくりたいと思つています。

岸田の「新しい資本主義」などあるわけない

「大阪都構想」住民投票に勝利

中村 大阪は、維新が蹂躪^{じゅうりゃん}していて、それをどう巻き返していくかという

高い壁があるんですよ。大阪都構想をめぐって住民投票を2回やって2回とも勝った。だけど、労働組合がどこまでそれに関与できたのか疑問で、むしろ市民団体のほうが活発に動いている。今もカジノの是非を府民に問えるということで、大阪府も市会も決議されているんですね。でも、労働組合がいかに立ち向かうのかがなかなか見えてこない。そういう点では壁、山は高いなというのはあります。でもそれを越えなかったらどうなるか。生きていくことが本当に息苦しくなっている。そんな感じを受けますね。

田中 大阪都構想は、市職とか官公労絶滅計画だし、地域丸ごと民営化計画ですよ。地方自治―戦後民主主義を解体しようとしている。労働者は非正規職に突き落とされる。本来なら労働組合が先頭で闘わなければいけない。でも、住民投票で2回勝ったのは大きいですね。

中村 それは本当に大きかった。

関 新自由主義がもたらした現実が

あまりにもひどいために、与党も野党もみんな、「新自由主義が問題だ」と言い始めました。格差・貧困が深刻だから分配を是正しようみたいな議論がありますが、鉄道・公共交通機関の崩壊状況もそうです、絶対に分配の問題じゃないですね。だってJRの全線区の57%で乗客数が廃線の基準以下になって、実際どんどん廃線されている。地域の衰退と鉄道切り捨てが加速し合って社会が崩壊しようとしています。非正規職が2千万人を超えているのも、労働法制改悪で政策的につくられたものです。「もうたたくさんだ」と誰もが感じています。

中村 人間の命の度合いがごつごつ弱められ、権利が弱められている、そない感じますね。もつと尊いものなのに。そこから僕らも、砂を噛んでも声を上げ続けんとあかんと本当に思いますね。

関 30年も賃金が上がっていないという、世界的に見ても異常な現実があります。日本の賃金は先進国中最低レベルになった。これが新自由主

義が生み出した日本の現実ですね。

春闘賃上げへ執行部が腹くくる

木下 この1年ぐらい、世界的な原材料の高騰があり、亜鉛なんか20年ぶりの高騰なんです。春闘でも、経営側には賃金を上げない理由は山ほどある。今まで組合に譲歩してきた部分も譲らないと腹を決めている感じですよ。

この5年ほど2千円妥結が続いていて、この春闘では負けても、一時金や次の春闘で……、みたいなことで妥結してきたんですが、世の中がここまで来てみると、組合員にあきらめを組織してしまったかなという反省があります。それで、執行委員会や拡大委員会で、まず執行部が腹をくくろうと決意して、「今年の春闘はとことんやる。承認してくれ」と訴えました。そうすれば現場は立つんやなと。

田中 おそらくこの物価騰貴は止まらないでしょうし、とくに非正規の人たちは、生きていけるかどうかギリギリの淵に立たされる状況です。

株主に配当しながらベアゼロ

関 JR東日本もベアゼロです。去年は定期昇給まで削ってきました。コロナで赤字だというのが理由ですが、株主には300億も配当している。私はCTSというグループ会社に出向していますが、契約社員など非正規職は、定昇もベアもゼロです。最賃改定の後、時給を10円上げたただけですよ。「生きさせろ」という言葉が現実味を帯びています。

JRは3月ダイ改で現業の職名を全部廃止してしまった。運転士、車掌、車両検修、施設、電気、信号通信、輸送、営業等の職名がすべてなくなりました。「何でもやれ」と現業機関を30kmぐらいの範囲で統合し始めた。「企業利益の最大化」がすべてに優先するというのです。こんなことをしたら人間はボロボロにされ、安全は崩壊します。「働き方改革フェーズⅡ」と言ってますが、全産業で同じことが起きてます。こんな状況をなんとか打破する運動をつくっていききたいと思っています。

人間の命の度合い・権利が弱められている

戦争反対は労働組合の責務

田中 共同アピールでは、第三に、戦争反対の闘いに立ち上がろうと訴えました。私たちは、戦後も朝鮮戦争、ベトナム戦争、イラク戦争など数多くの戦争を経験してきたわけですが、ウクライナ戦争はそれまでとは次元が違う意味をもっているように感じます。三たび戦争が世界をの



動労千葉が春闘ストライキに立ち、戦争反対の街宣（2022年3月12日 千葉駅前）

み込んでいく危機に直面している。

中村 戦争反対というのは、労働組合の責務として、労働者の権利の問題と前後ろみみたいな、一体やというように思っていましたね。ここを外したら労働組合の役割はなくなると思っっているんです。とくに今年の場合には目に見えてこんな状況になっているから、やっぱりもっと声を上げていくようなことをせんとね。

とくに、この戦争に乗じて「非核三原則」を破棄しようとか、「核共有」とか。大阪でまず腹が立つのは維新ですよ。

田中 「核共有」を煽^{あお}っているのは維新ですからね。

中村 そんながボーンと出るでしょう。「戦争やめんかい」というんじゃないくてね。それで「身を切る改革」とか言う。身を切られるのはわれわれや住民や。これはほんまに表裏一体の問題です。労働組合の責任として、絶対改憲させてはならん、

戦争を止めなければいけないと本当に思っていますね。

武谷 ほんま労働組合の任務やと思いますね。僕らの先輩はベトナム戦争反対でストライキを打っていました。経営側が「そんなん労使の問題と違うわな」と言っても、「何言うてんねん。平和あつての経済活動やないか」と。イラク戦争反対のストの時は僕も執行委員で、集団交渉で、中小零細企業の経営者に「イラク戦争反対」を決議させました。今ウクライナの問題でストライキができないのは、ちよつと悲しいところですが、中央委員会でも反対決議をあげました。戦争は最大の権利侵害です。ここで労働組合が踏ん張らないといけない。

「復帰」50年の沖縄闘争へ

木下 今まで改憲・戦争反対と言っても、自分の問題にまではなっていない感でした。でも今は、社会で何が起きているのか、ものすごい関心が高まっている気がします。今年も地域で沖縄現地学習会に行くんです

が、これまであまり熱心じゃなかった若い組合員が2人行きます。沖縄も「復帰」50年の歴史的な年です。「台湾有事」が煽られる中で、戦争への緊張感が高まっている沖縄に今年行く意味はすごいあるなと思っ声かけた。ささやかな職場の変化ですが、ウクライナ戦争が始まって、ちよつとずつ意識の変化が起きているんやないかなと思います。

関 11月集会は「労働者総決起集会、改憲・戦争阻止！1万人大行進」と銘打ってやってきました。動労千葉も、戦争させないために改憲はさせないということを労働組合の一番大事な任務にしなければいけないと考えています。アメリカと日本は「台湾有事」を振りかざし、南西諸島はどんどん出撃基地化されています。

ウクライナ戦争に便乗した日本政府の動きはひどすぎます。「今こそ改憲だ」と煽り、敵基地攻撃能力だけじゃなく、「敵の中枢機能を攻撃できる能力」をもつようにするんだと言い、自民党は、防衛費をGDPの2%・10兆円まで引き上げる大軍拡を決めています。戦争を利用して「戦争のできる国」をつくる。これは絶対に許せませんですね。

ウクライナ戦争に便乗した大軍拡許せない

田中 ロシアのウクライナ侵攻は絶対に認められないことですが、だからといってNATOが正義なのか、それも絶対違う。「プーチンは悪魔だ」と煽りたてることで、挙国一致みたいなところにすべてを流し込んでいくのはもっと危険なことです。NATOも日本も大軍拡への歯止めが外れ、コントロールを失ったように戦争に向かっていきます。大変な事態です。やっぱり国家・国境を超えて労働者が団結する以外に、戦争を止める力はない。そうしなかったら、戦争がさらに支配を崩壊させ、情勢を不安定化させて、それがさらに戦争を生み出すという事態に陥るに決まっています。

関 海外に向けても戦争反対のアピールを出したんですが、一番反応が返ってきたのは、歴史的な経緯をみれば、この戦争の本当の原因をつくったのはNATO、とくにアメリカじゃないか、という部分でした。「全くそのとおりだ」といくつも返事が来ています。

ウクライナめぐり“夫婦喧嘩”

中村 それを言うのがタブーにされていますでしょう。それは怖い話で、

家で話していても、そこにいったら、もう夫婦喧嘩になる。「背景はもっとある」言うても、報道が大本営発表になっていきますからね。全港湾のある役員も「中村さん、俺のところ

国際連帯を発展させよう

田中 さて、共同アピールで第四に訴えたのが、国際連帯闘争を発展させようということです。新自由主義の資本の攻撃も世界共通だし、戦争



国軍クレーダーと闘う在日ミャンマー人の訴えに会場が応え（21年11月7日）

も一緒やで。夫婦喧嘩なるんや」と。**関** こんなことしてたら、核だつて使いかねない。本当に世界戦争になつてしまう。

中村 武器を送るなよと言いたい。

を止める力という意味でも労働者の国際連帯は不可欠の課題です。11月集会は草の根からの画期的な国際連帯運動をつくり上げてきました。

木下 僕は03年から始まった国際連帯闘争がすごい印象的で、海外の人に触れるのも初めてですよ。それが今もずっと続いていて、とくに韓国・民主労総ソウル本部の代々の役員の皆さんとすごい親しい関係になっている。アメリカの労働者が日本の闘いに注目してくれたり、ドイツやトルコ、イタリア、中国、台湾へと広がっているのはすごい。そういうつながりができたことで、今、職場で起きていることの意味もすごいつかめてきたように思います。

関 国鉄労働者はだいたい井の中の蛙、内弁慶で、国際連帯なんて考えもしなかったんです。でもそれが予期せず始まってどんどん広がって

いったのには、自分もびっくりでした。毎年何十人も海外代表団を迎えることになり、どうしようかと毎年11月が来るのが憂鬱でしたね（笑）。

中村 大阪では「日韓民衆連帯」という運動をずっとやっていて、ウクライナ戦争に対しても、韓国^{チョンブ}の方たちと共同声明を出しているんです。民主労総ソウル地域本部との間でなにかできたらいいですね。

武谷 去年は国軍クレーダーと闘うミャンマーの人たちが大勢参加してくれました。ウクライナ戦争反対の声を結集させることができるということです。

関 そう思います。昨年来共同行動をやったり、結びつきは深まっていますし、この間ミャンマーとウクライナの人たちが一緒に東京でデモをしているんですよ。そこに僕らも参加しています。海外からも今年はぜひ行きたいというメールがいくつも来ています。コロナ禍で海外からの代表団が来れるかどうかはまだわかりませんが、こんな状態の中でも、国際連帯は驚くほど広がっています。コロナ禍が終わったらどうなるのか怖いぐらいです（笑）。

11・6日比谷に団結の力を

田中 最後に11月集会に向けた訴えをお願いします。

中村 今この戦争情勢の中で私たち

が人間らしく生きていくために何をすべきかを真剣に考えて、それをせなあかん時が来たなと思います。人



2019年11・3労働者集会の最後に「団結ガンバロー」

権の面も本当に軽視されている。「砂を噛んでも闘い抜く」というのが私どものシンボリックなスローガンなんですけど、労働者の団結権が破壊されている今こそ、そういう覚悟が必要だと感じますね。

田中 すごいスローガンですね。

武谷 ようわかりますわ。しんどい時に、どれだけ前向いて踏ん張れるかというのがね。うちも弾圧で、生活のために離れていく組合員もいてるけど、そのしんどい時に残っている組合員は、少数と言えどもしっかりし

ています。

労働組合に希望を持つことができなくなっている現状の中で、とにかく目に見えた行動をやりましょう。改憲・戦争反対も、大阪のカジノ反対も、権利侵害反対の争議・ストライキも、労働者が希望を見いだせるように、原理原則の行動をどんどんやって、「なんや、11月集会、食べたらおいしかったやないか。今まで食わず嫌いやったんやな」と感じてくれたらいいなと思ってます。



2021年11・7労働者集会のデモ行進

木下 職場は若手が多いので、そういう人らが空気入るような闘いをやりたいなと思っています。以前はとにかく毎日昼休みになったら争議現場に駆けつけるというのがあって、1日1回は鉢巻をまいたんですね。もう一度労働者が目の色を変えるような方針を出さなあかんやろうし、闘う組合というものが地域で目に見える形で登場するようにしたい。11月集会の魅力をどんどん発信したいなというのがすごいです。ぜひ来てみて下さい。

関 何世代にもわたってつくりあげてきた集会です。私は委員長になってまだ2年ほどですが、継続してきた力は非常に大きいと思います。ようやく時代に噛み合うところまで来た。11月集会に1万人の結集を実現する。そして新自由主義に断を下す。戦争を止める。そういうことが可能な情勢だと思っています。労働者が団結した力を見せてやりましょう。ぜひとも労働運動再生に向けた知恵と力を貸して下さい。共に闘いましょう。

田中 ありがとうございます。

労働者が希望もてる原理原則の行動を

「11月労働者集会」25年 3労組共同アピール

私たち3労組が、「闘う労働組合の全国ネットワークをつくろう」と呼びかけて、初めて日比谷野外音楽堂で11月労働者集会を開催したのは1998年のことでした。それ以来、全国の仲間たちに支えられて一度も欠かすことなく開かれてきた11月集会が今年25年を迎えます。

今、関西地区生コン支部は労働組合活動を犯罪とし、89名もの組合員らを不当逮捕する戦後最大の大弾圧の渦中にあり、またJRの職場では「労組なき社会」をつくろうとする激しい攻撃が進んでいます。それでも私たちの闘う意志は少しも揺らいでいません。また11月集会は、イラク戦争をきっかけに、韓国・民主労総ソウル地域本部や鉄道労組ソウル地方本部、アメリカ、ドイツ、ブラジル、トルコ、イタリア、中国、台湾、フィリピン、ミャンマー等の労働者との画期的な国際連帯闘争、共同行動へと発展しました。

それは「蠅螂（とうろう）の斧」のごとき、小さな労働組合の大きな挑戦でした。しかし、労働運動がとめどなく後退する困難な状況下で、「労働運動の変革」という大テーマを掲げ、25年間継続してきた蓄積はけっして小さくはありません。

時代は大きな岐路に立っています。あらためて全国の仲間たち、全世界の仲間たちにアピールを発し、労働運動再生に向けた闘いを新たな段階に進めたいと決意しました。

11月集会は、国鉄分割・民営化攻撃によって日本に導入された新自由主義が、社会全体をのみ込もうとしている渦中で始まりました。それから25年、労働運動を破壊し、社会を蝕（むしば）んで吹き荒れた新自由主義攻撃は、自らが生み出した矛盾によって崩壊しようとしています。すべてが限度と限界をこえ、怒りと悲鳴が社会の隅々に満ちています。出口を失った危機が戦争を生み出そうとしています。

私たちは訴えます。

第一に、私たちは関生支部への大弾圧、政府・JR資本による「労組なき社会」化攻撃を粉碎するために全力を尽くして闘っています。それは労働者の権利・労働運動の未来をかけた闘いです。それは「戦争のできる国」をつくるための労組破壊攻撃です。連合は存立基盤を失って危機を深め、自民党に急接近するなど、ナショナルセンターとしての実質を放棄しようとしています。労働者自身の手で労働運動を再建する時がきました。闘う労働組合を甦（よみがえ）らせるためにも、私たちは必ず関生弾圧を粉碎します。この闘いにぜひともご支援をお願いします。

第二に、新自由主義を終わらせなければなりません。日本の賃金水準は先進国中最低レベルに落ち込み、貧困が社会に蔓延（まんえん）しています。激しいインフレが始まりました。それが労働者の生活に、とくに非正規職、女性、子どもに悲劇的な結果をもたらすことは明らかです。「同一労働同一賃金」など真っ赤なウソだったこと、最低賃金に同一化する総非正規職化攻撃だったことがあらわになっています。民営化、外注化、非正規職化、労働柔軟化・融合化が嵐のように進められています。ズタズタに引き裂かれ破壊された雇用や権利、医療、教育、地球環境、社会のすべてをつくり直さなければなりません。それができるのは労働者の団結した力だけです。労働運動を刷新しなければなりません。

第三に、改憲と戦争を止めるために力を合わせて立ち上がることを訴えます。それは労働組合の最も大事な任務です。規制を解き放たれた資本の暴走は世界中で数十億人にのぼる飢餓を生み出し、国家主義と結びついて民主主義的なものをことごとく破壊し、中東では20年に及ぶ戦争を生み出しました。そして今、米日政府は東アジアにおいて、「台湾有事」を焦点とした中国侵略戦争の深刻な危機をつくり出しています。岸田政権は「敵基地攻撃能力の確保」を掲げて空前の大軍拡を強行し、沖縄―南西諸島全体の出撃基地化が急速に進んでいます。今年5月、沖縄は「復帰50年」を迎えます。しかしその「祝賀」にぬり隠されて沖縄は再び戦争にのみ込まれようとしているのです。

改憲攻撃が切迫しています。憲法審査会を毎週開催することが与野党で合意され、自民党本部と全県連に「憲法改正実現本部」が設置され、5月連休前までに全県で「憲法改正大会」が開かれようとしています。今年私たちは、沖縄・改憲をめぐって毗（まなじり）を決して闘いに立ち上がらなければなりません。「外への侵略戦争」と「内への階級戦争」は一つの攻撃です。全国の仲間たちに訴えます。あらゆる職場・地域から草の根の闘いをつくり出そう。全世界の仲間たちに訴えます。東アジアにおける戦争を止めるために、私たちに連帯の力を貸して下さい。

第四に、労働運動の不可欠の課題として、私たちは労働者の国際連帯闘争のさらなる前進のために闘います。11月集会は、民主労総ソウル地域本部と共に「東京―ソウル国際共同行動」として発展し、今日に至っています。全世界の労働者が燎原（りょうげん）の炎のように新自由主義への反撃を開始しています。アメリカでは社会の隅々で新労組が結成され、ストライキが激発し、韓国では民主労総が社会の変革をめざしてゼネストに立ち上がりました。ミャンマーでは国軍クーデターに対する命がけの抵抗が続いています。私たちも同じ時代を生きています。

私たちは11月6日、東京・日比谷野外音楽堂で「労働者の団結した力で新自由主義を終わらせよう！ 闘う労働組合を甦らせよう！ 改憲・戦争阻止！ 1万人大行進」を呼びかけます。ぜひとも多くの皆様の賛同と参加をお願いします。

全国各地に実行委員会、賛同人・賛同団体会議を立ち上げて下さい。共に討議し、様々な行動を組織し、変革に向けた計画をつくりあげたいのです。変革は、突然奇跡のように起こるものではなく、時には何世代にもわたる努力によって起きるものです。私たちはその新たな一步を踏み出します。多くの仲間たちがこの闘いに加わって下さることを願っています。これまでなら不可能だと思われたことも可能性を帯びて動き出す時代です。労働運動の再生は、この時代に求められている最先端の変革です。私たちこそ社会の主人公です。共に闘いましょう。

2022年2月13日

全日本建設運輸連帯労働組合関西地区生コン支部
全国金属機械労働組合港合同
国鉄千葉動力車労働組合